Assist-V3 簡易説明書

1. 機器の接続を確認する

■1-1. ロガードライバのインストール

東京測器製ロガーをお使いの場合、最初にロガードライバのイン ストールが必要です。ドライバはCDに添付されています。

■1-2. 機器の接続 – 東京測器 DC-004P の場合

1. 計測器(荷重計・変位計)を試験機に取り付けます。

2. 計測器とロガーをPRCケーブルで接続します。



■1-3. 機器の接続 – テクノソフト TSC-2WA の場合

1. 計測器(荷重計・変位計)を試験機に取り付けます。

2. 計測器とロガーをPRCケーブルで接続します。

CH1→荷重計 PRC RS-232C CH2→変位計 ケーブル ケーブル CH3→変位計 警報→リレー用 3. ロガーとPCをRS-232Cケーブ ルで接続します。 計測器 PC ※電源が必要 (試験機) (Assist-V3) ロガー

■1-4. 機器の接続 – USBIO2 リレーボックスの使用

1. USBIO2リレーボックスが試験機上の所定のラインと接続されて

いる事を確認します。

※接続に工事等が必要な事が あります。

2. USBIO2リレーボックスとPC をUSBケーブルで接続します。



2. 試験を開始し、自動計測を行う

■2-1. 計測準備

- 1. メイン画面の「データの計測」欄から、計測を行う試験名称が記載された ボタンをクリックします。計測画面が起動します。
- 2. 供試体を試験機にセットします。
- 3. 計測開始前に画面左上の「見出し」 「供試体番号」を入力しておきます。

出力ファイル名	AR20140106-085757.dat
見出し	テスト計測
供試体番号	11 計測No. 1

注意!

荷重計に載荷板などが当たり荷重が掛かるとAssist-V3の計測がスタートして しまいます。供試体セット中に荷重計に触れないよう、ご注意下さい。 また、変位計がフリーであり、荷重計より変位計が先に接触する事を確認 して下さい。変位計より荷重計が先に接触しますと、変位量を正しく読み取 れませんのでご注意下さい。

■2-2. 計測開始・計測終了

- 1. 試験機を動かし、載荷をスタートさせます。
- Assist-V3は、荷重が掛かった時点から計測 を自動的に開始します。
 グラフが描画され、画面右上に「計測 中」と表示されます。
 - ・横軸→変位(mm)
 - ・縦軸→荷重(kN)
- 3. 荷重(または変位)が計測終了条件を満た すと、計測が自動的に終了します。この 時、試験終了音が鳴ります。
- 4. USBIO2リレーボックス、または、TSC-2WA ロガーの警報をお使いの場合のみ、計測 終了時にリレーがONになります。
 - リレーがONになる事で、試験機が載荷を停止します。 ※リレーの設定や挙動は試験機ごとに異なります。
- 5. 計測が停止しない場合は画面上部の「取込停止」ボタンを使用して計測を止めます。 この際もリレーがONになります。

■2-3. 次の計測を準備する

- 1. Assist-V3は計測後、荷重が抜けてから一定時間を待機します。 待機中は荷重が掛かっても計測を開始しませんので、この間に次の供試体をセットします。
- 2. 必要に応じて「見出し」「供試体番号」を入力します。
- 3. 「2-2.」に戻り、次の計測を行います。



3. 計測結果を確認・CSV出力する

■3-1. 計測結果を確認し、土質試験システム用CSVを出力

- メイン画面の「データの確認」欄から、確認を 行う試験名称が記載されたボタンをクリックし ます。確認画面が起動します。
- 「開く」ボタンから計測結果データを選択して 読込ませる事ができます。
- 3. 画面左上の「次・前」で供試体を選択します。
- 4. 不要な供試体データがある場合、「削」ボタン で供試体を削除できます。
- 5. 荷重の立上げ開始変位が0mmから大きくずれて いる場合、「立上荷重表示補正」の値を変更す る事で修正できます。



6. 「保存」ボタンで編集結果を保存できます。また「CSV出力」ボタンから計測結果を出力し、土質 試験システムで利用できます。

4. 帳票を作成・出力する

■4-1. 帳票用データを作成し、帳票Excelを出力する

- 1. メイン画面の「グラフ作成・印刷」欄から、帳票作成を行う試験名が記載されたボタンをクリッ クすると画面が起動します。
- 2. 画面左の「計測データ読込」ボタンで計測結果 757作成・印刷・正認識 データを選択し、計測データを読込みます。
- 3. 計測データを追加、削除する場合、画面中央下 の「読込」「操作」欄のボタンから行います。
- 「一括原点修正」欄の「修正実行」ボタンをク リックすると、全てのデータを原点修正する事 ができます。個々の供試体を原点修正したり、 原点修正を調整したい場合は「操作」欄ボタン の「編集」から行います。



- 5. 画面左の「ヘッダ情報入力」ボタンから、必要 に応じて帳票に必要な項目を入力します。同様に、表の直径、厚さ、乾燥質量なども入力します。
- 6.「Excel印刷」ボタンから編集結果をExcelに出力する事ができます。また「報告書」ボタンから圧 裂試験報告書をExcelに出力する事ができます。
- 7. 「保存」「開く」は画面の編集内容を保存・読込みできます。